

## 釈尊最初の説法 四諦

### —苦からの脱却—

#### ◎四諦とは何か

釈尊は三十歳の時、菩提樹のもとで悟りを開きました。覚者となって初めて法を説くことを「初転法輪」と言います。釈尊は初転法輪として、鹿野苑で阿若憍陳如ら五人に四諦の法門を説きました。「諦」は「真理」のことですから、四諦とは「仏が悟った四つの真理」ということです。

この四諦は苦諦・集諦・滅諦・道諦を言い、苦の現実相とその原因（苦諦・集諦）、さらに苦を脱却した悟りの境地とそこに至る修行（滅諦・道諦）を明らかにすることを説いたものです。

一般に物事の因果を論ずる場合、最初に原因を挙げ次に結果を述べますが、苦集滅道という順序は、苦の結果（苦）・苦の原因（集）・涅槃（さと）の結果（滅）・涅槃の原因（道）というように、結果を先に挙げています。それはなぜかと言いますと、最初に結果の相をはっきり示して、より効果的に衆生を導こうとするためなのです。

#### 一、苦諦

##### —苦の現実相—

私たちの住む世界、すなわち欲望に支配される欲界は汚れと苦悩が充満しています。人生の苦しみの相は様々ですが、それらの中で最も基本的なものとして四苦・八苦と三苦が挙げられます。

##### (1) 四苦

- ① 生苦（迷いの世界を流転していく苦しみ、また生まれるときの苦しみ）
- ② 老苦（年老いて心身共に衰弱する苦しみ）
- ③ 病苦（精神や肉体が不調となることによって受ける苦しみ）
- ④ 死苦（すべての財産と縁者を失い、心身共に破壊する苦しみ）

##### (2) 八苦

八苦とは、前の四苦に次の四苦を加えたものです。

- ① 愛別離苦（肉親や友人等の愛しい人や執着する物事と離別する苦しみ）
- ② 怨憎会苦（怨み憎む人に会う苦しみ）
- ③ 求不得苦（求めるものが得られない苦しみ）
- ④ 五陰盛苦（自分の身や感覚・認識等に執着することによる苦しみ）

##### (3) 三苦

- ① 苦苦（望ましくないものについて生じる心理的な苦痛）
- ② 壊苦（望ましいものが変化消滅することによって生じる苦しみ）
- ③ 行苦（すべてのものが無常であることに伴って認識される苦しみ）

## 二、集諦

### —苦の原因—

「集」とは集起・招集のことで、ここでは「煩惱が集まり起こる」という意味と「煩惱によって生死（迷いの世界）の苦を招き集める」という意味から「集諦」と言います。

仏教では、私たちが苦しむ原因は煩惱にあると説きますが、煩惱の中でも三界六道の煩惱は見思の惑と言われるもので、見惑とは真実の道理に迷う理性上の惑であり、思惑とは物事を思慮するとき起こる感情的な迷いを言い、これらは、貪・瞋・癡の三毒が根本になっています。

また、『四諦経』には、苦の原因として、欲愛・有愛・無有愛の「三愛」が説かれています。欲愛とは心身の欲望を満たそうとする情愛を言い、有愛とは物質や思想さらに生存そのものに対する執着を言い、無有愛とは生存を否定する考えに執着することを言います。

## 三、滅諦

### —苦を離れた理想境—

「滅」とは、苦の因である煩惱をすべて滅し尽くした状態を言い、この世の無常を超越し、執着をなくすことが苦を消滅した悟りの境地なのであり、これを滅諦と言います。この状態を涅槃寂靜の境地とも言います。

## 四、道諦

### —理想境に至る修行—

道諦とは苦を消滅するには正しい修行が必要であるということです。釈尊は、聖者となるためには「八正道」を修行せよと説きました。八正道とは、

- ① 正見（仏教の道理に適った正しい智慧）
- ② 正思惟（正しい考えと意思）
- ③ 正語（妄語や悪口等を排した正しい言動）
- ④ 正業（殺生や偷盗等を離れた正しい行為）
- ⑤ 正命（身口意の三業を清浄にした正しい生活）
- ⑥ 正精進（善法を求めるための正しい努力）
- ⑦ 正念（涅槃の理想とそのための修行を忘れることなく常に思う心）
- ⑧ 正定（正しい智慧による精神統一）のことで。

## ◎四種の四諦

この四諦の法は、『諸経と法華経と難易の事』に、

「声聞には四諦、縁覚には十二因縁、菩薩には六度」（御書 一四六九頁）

と仰せられるように、声聞が見思の惑を断じて阿羅漢果を得るためのもので、未だ眞実を顕わさない小乗教の法門です。しかし天台大師は、四諦の法は、苦を脱却する因果の法という点において、仏教全般に通じる根本法理であるとして、蔵・通・別・円の四教にそれぞれ四諦を立てました。これが「四種の四諦」です。今その名目を挙げてみますと、

① 生滅の四諦（蔵教）

四諦因果の諸法に生あり滅ありと説く。

② 無生の四諦（通教）

迷悟の因果は共に空無であり、実の生滅はないと説く。

③ 無量の四諦（別教）

界内（六道）と界外（四聖界）にわたる四諦の法門は無量であり、菩薩が修学するものと説く。

④ 無作の四諦（円教）

法界の眞実相は煩惱即菩提・生死即涅槃であり、断証の造作を離れたものと説く。

このように、衆生の苦を解決するために説かれた仏教と言っても、その教義は經典によって様々です。

日蓮大聖人は『御義口伝』に、

「法華經に値ひ奉る時、八苦の煩惱の火、自受用報身の智火と開覚するなり」（同一七三九頁）

と仰せられ、さらに、

「妙の一字の智劍を以て生死煩惱の繩を切るなり」（同一七五九頁）

と御指南されています。すなわち末法における眞実の解脱は、文底の大法たる大御本尊を受持し奉り、信心に励む以外にないのです。